



TITLE:

# 昨1934年上半期に於ける小遊星発見状況

AUTHOR(S):

---

CITATION:

昨1934年上半期に於ける小遊星発見状況. 天界 1935, 15(169): 259-260

ISSUE DATE:

1935-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167015>

RIGHT:

## 昨1934年上半期に於ける小遊星発見状況

1934年の小遊星発見状況を見るため、此れを二分して今回は其の上半期に於ける発見状態を記す。

1月1日より6月30日迄に発見された小遊星は總計145個である。此れを月別にして示せば、第一表の通りになる。此の中、前に発見されたものと同定さ

第一表

月	発見小遊星 数
1	10
2	38
3	23
4	28
5	11
6	35
計	145

れた小遊星が5個あるから、新発見のものとしては總計140個になる(勿論後になつて此の中より又同定されるものも出て来るかも知れないが)。併し、新しく番號がつけられて登録されたものは僅かに5個である。即ち、1935 AD=(1297), 1935 AE=(1298), 1935 BA=(1299), 1935 CL=(1300), 1935 EA=(1301)。此れ等は、1935年より一般の小遊星と同じく年毎に其の豫報位置が發表される筈である。又名稱の附された小遊星は下の2個である。

1299="Metona"

1300="Marcelle"

発見された小遊星145個の觀測状況は第二表の通りである。其の半數以上

第二表

觀測數	數
1回觀測のもの	83
2 "	19
3 "	14
4 "	10
5 "	4
6回以上のもの	15

第三表

發見者	發見地	數
Jackson	Johannesburg	56
Reinmuth	Heidelberg	44
Delporte	Uccle	15
Arend	Uccle	10
Neujmin	Simeis	6
Van Biesbroeck	Williams Bay	2
Mündler	Heidelberg	2

は、只一回の觀測しかなく軌道の決定をなす事が出来ない。発見の爲し放しである。此んなものは発見しない方が良いかも知れない。2回以上觀測のもので、圓軌道又は橢圓軌道の發表されたものは僅かに20個餘りに過ぎない。餘りにも発見の濫造が目につく。

次に發見者によつて統計を取り、2個以上の發見表を表にすれば第三表の

第四表

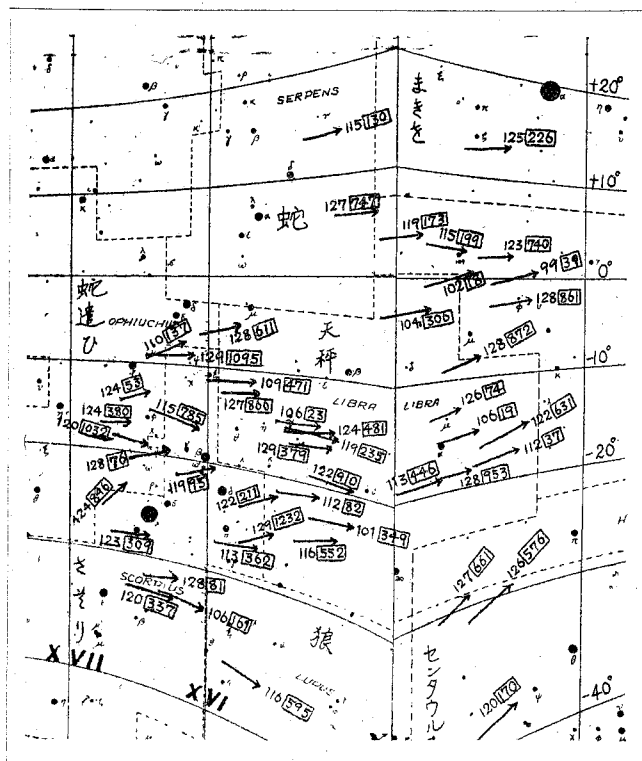
天文臺	數
Johannesburg	56
Heidelberg	46
Uccle	25
Simeis	6
Alger	4
Yerkes	2
Torino	1
Budapest	1

如くなる。尙, Boyer, Reiss, Renaux, Bancilhon, (以上 Alger), Terkan (Budapest), Volta (Torino) の諸氏が一個づゝ発見した。又同じ小遊星を2人が獨立発見したものが4個ある。

天文臺別にして発見數を表はすと 第四表の如くなる。表は2人以上の獨立発見のものを含まない。

(以上 March 15 記)。

### 一九三五年五月中旬の小遊星圖



上圖は本年5月中に對衝になる小遊星の中、光度12.9等迄のものの概略の位置を示す。小遊星が赤道より南に集中すれば銀河が真ぐ傍に迫つて來て、夏の近い事を、はつきり感じる。其の代り、戸外の觀測は樂である。5月、6月は戸外觀測の最も能率の上る時である。